

前澤工業株式会社

総合エンジニアリングとモノづくりの融合

—ライフラインを支える使命に徹する

記者の目



- ▶ 長年培った経験と技術力で顧客ニーズに即応
- ▶ 自社工場での一貫生産に加え、省エネ対応の技術力を強みに存在感

前澤工業は1937年(昭和12年)に創業、今年で84年目を迎える。水道用機械器具の販売からスタートした同社は、生活に必要な不可欠な上下水道インフラを支える事業を展開。上下水道の総合エンジニアリング会社でありながら、自社工場でもノゾクリに取り組みメーカーとしての顔も持つ。長年培ってきた技術力と独自製品を生かし、顧客ニーズに素早く対応している。

同社は水道水の供給や生活排水、産業排水の汚水処理に用いるプラントや製品を提供しており、官公庁の仕事が全体の9割を占める。日本では人口減少を背景に、プラントの新設よりも更新需要が拡大している。宮川多正専務取締役管理本部長は「ここ数年メンテナンスの需要が伸びており、今後、更新時期を迎える施設も多い」と話す。



専務取締役管理本部長
宮川 多正さん

国内トップシェア製品も生産

前澤工業は埼玉県幸手市に自社工場を保有している。この工場の敷地面積は東京ドーム約2.5個分に匹敵する約10万平方メートルと広大だ。

水の流れをせき止める鑄鉄ゲート、流量を調節するバルブなどを生産し、国内トップシェア製品もラインアップする。工場内には高周波電気炉を有し、年間の鑄造生産量は約2500トン。開発から設計、生産、出荷までの一貫体制を確立している。

人口減少による水道使用量の減少、施設管理の人手不足、災害対策、省エネルギー化など上下水道事業には課題が山積しており、これらに対応する技術開発は業界の共通課題だ。同社が産官学連携で開発した効率的な下水処理技術「OD法における二点DO制御システム」は、柔軟性のある運転制御と効率的な装置により30%以上の消費電力量を削減する。さらに情報通信技術(ICT)を活用し、現場作業を効率化するサービスの提供も計画している。

近年では、バイオガスプラントにも積極的に取り組んでいる。畜ふん尿や稲わら、食品廃棄物などから得たバイオガスを電気や熱に変換し、再生可能エネルギーとして活用するなど、バイオマス資源を有効活用し循環型社会の実現に貢献しているのだ。

“自律走行型人材”の育成

前澤工業は、経営理念に「水とともに躍進し 人間らしさをもとめ 社会に貢献できる魅力ある企業」を掲げて事業を行っている。これは国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の理念とも一致しており、事業がそのままSDGsの取り組みに直結する。宮川専務は「地球規模の活動に関わっていることは仕事に対する社員のモチベーション向上につながっている」と話す。

こうした経営理念を実践できる“自律走行型人材”の育成は欠かせない。自ら考え、学び、行動し、自らを律することのできる人材だ。メンター制度により、新入社員は先輩社員との対話を通じて仕事への姿勢を学び、人間性を高めていく。

さらに「技術・技能継承の火を消さないようにしている」と宮川専務は言う。熟練技能者が持つ匠の技を後世に伝えるのは、工場を持つ同社にとって肝となる。継承すべき技術・技能を特定し、伝承者と後継者を選抜して育成に励んでいる。メーカーの側面を持つ同社ならではの取り組みと言えるだろう。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社員の健康を第一に考え、在宅勤務や時差通勤の活用を促したが、一方で公共インフラを支えるという使命感から社員の多くは



2019年度「STI for SDGs」アワード優秀賞を受賞した二点DO制御システム



埼玉県幸手市に所有する自社工場では、開発から出荷までの一貫体制を確立



北海道士幌町に建設したバイオガスプラント

事業継続に理解を示し、日々の業務に協力してくれたという。働き方が多様化する中で、育児休業や短時間勤務制度を利用し活躍する社員がいるほか、65歳定年制に

移行し、70歳までの再雇用制度を導入した。宮川専務は、「社員が長く働けるキャリアプラン、自分のライフプランが描ける職場環境を作る」と強調する。

仕事へのやりがいと働きやすさが社員のモチベーション向上につながり、社員が使命感を持って取り組むことが次の成長に向けた会社の原動力となっている。

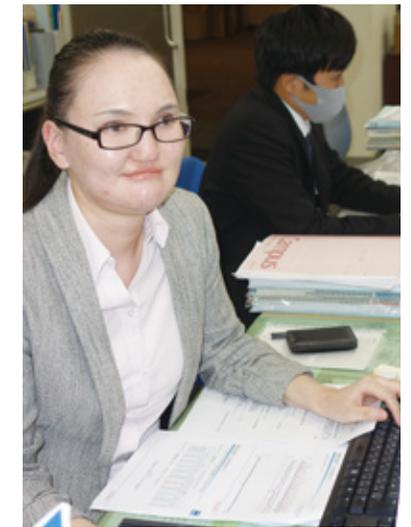
理系出身の若手社員に聞く

日本で得た経験を途上国に役立てたい

環境R&D推進室 技術開発センター
ガンバト・ゾルザヤさん(2018年入社)

私はモンゴル出身で、2012年に来日しました。日本の大学で環境システムを学び、大学院では下水処理の研究に没頭しました。当社を志望したのは、上下水道を手がける事業領域の広さに惹かれたからです。現在は省エネに対応した下水処理システムの開発を担当し、コンピューターシミュレーションを用いてシステムの最適な運転条件の検証を行っています。

当社は少人数でプロジェクトを動かしているため、社員一人に対する業務の幅が広くやりがいを感じます。世界の人口増加で水市場は拡大傾向にあり、将来性のある分野だと思います。今後も日本で活躍し、いずれ日本で学んだことを途上国にも役立てていきたいです。



会社DATA

本社所在地：埼玉県川口市仲町5-11
設立：1947年9月
代表者：代表取締役社長 松原 正
資本金：52億3371万円
従業員数：693名(2020年5月)
事業内容：上下水道用機器・水処理装置の製造および販売
URL：http://www.maewawa.co.jp/

